

外国語教育とレアリア

堤 正典

キーワード：レアリア，世界観，コミュニケーション，ディスコミュニケーション

1. 「レアリア」とは —— シンポジウムの趣旨説明にかえて

千野栄一（1932-2002）は『外国語上達法』（岩波書店，1986）を著し，外国語（異言語）の学習について「はじめに」「目的と目標」「必要なもの」「語彙」「文法」「学習書」「教師」「辞書」「発音」「会話」と順にその各章で述べてきて，最後の「まとめ」の前に「レアリア」という章を置いている。

この本によると「レアリア」はチェコ語で *reálie* で、「ある時期の生活や文芸諾作品などに特徴的な細かい事実や具体的なデータ」（p.178, p.183），また，「現実的な知識や情報」（p.183）のことであるという。このような知識が外国語学習においてなぜ必要で，それが無いとどのようなことが起こるかが示されている¹。

「それぞれの言語はその話者の世界観の形成に差異的に関与する」とする「サピア＝ウォーフの仮説」（あるいは「言語的相対論 Theory of linguistic relativity」）を引き合いに出すまでもなく，異なる言語が行われているそれぞれのコミュニティーでは，言語による様々な物事の切り取り方に違いがある。他の言語では説明しがたい意味をもつ語があったり，異なる言語でそれぞれの語や文が同じことを表しているようにみえても実際には異なっていたりすることがしばしばある。

前掲書では，プラハで「セロリのサラダ」を注文したら，想定と異なるものが出てきて，実は「セロリのサラダ」とは「セロリの根のサラダ」だったということが例のひとつとして挙げられている。日本ではセロリは茎を食べるもので，根を食べるとは思わない。そこから生じたディスコミュニケーションである²。

レアリアに関する知識がないと，コミュニケーションに齟齬を来すことがある。外国語学習・外国語教育においてもレアリアは注意すべき問題なのである。そこで，今回のシンポジウムではこれを取り上げ，事例を出しながら話し合ってみようと考えたわけである。ここでは日本人に対するロシア語教育とロシア人に対する日本語教育の双方を扱う。微妙な意味の違いも含まれるだけに，それぞれの母語話者であり，それぞれの教師であり，そ

¹ なお，各章のタイトルには副題がついているが，この章では「文化・歴史を知らないとなつて」になっている。

² ちなみに，そもそも日本の「サラダ」とロシアの салат は違うように思う。「サラダ」はキャベツやレタスなどの生野菜を刻んでドレッシングをかけたものが多いが，ロシア語の салат はもっと手の込んだ料理である。

れぞれの研究者による，このようなコラボレーションは有意義であると考えた。

ところで，もしかすると，ここまでで意外に思われた方があるかもしれない．というのは，英語では，*realia* は「実物教材」を意味し，現実や現実についての知識というよりも，具体物を教材として用いることを表しているのである（千野 1986: 184）．「レアリア」を英語でのそれとして理解されている方は，この期に関して，ここまでで私が述べたこととは異なった認識をお持ちということになる．個々の言語によって「レアリア」という語自体の意味することが異なることがあるのだから，まさにこの「レアリア」という語を使うにもレアリアが必要となるのである．

言語教育・外国語教育の話題の中には，当然「実物教材」としてのレアリアを含めることも必要であり，この議論でもそれを含めてよいと考える．

2. 日本人ロシア語学習者にとってのレアリア

具体的に事例を挙げる．私はロシア語の教師なので，ここでは日本語を母語として日本でロシア語を学ぶ人にとってのロシア語におけるレアリアの知識に関わる事例のいくつかを述べることにする³．

ロシアにあって日本にない物事を表す語，ロシアに特有なものを表す語は，日本人学習者はその意味を直ちに正確にとらえるのは困難である．また，日本語とロシア語で意味が対応しているように思えるものが，実は異なっているということもある⁴．

2.1 まずは日本にはないようなものを表す語から見ることにする．ロシアには *маршрутка* と呼ばれる公共交通機関がある．「定路タクシー」とか「乗り合いタクシー」とか訳されることもあるが，路線バスと同じ経路を走り，乗り降りはバス停以外でも可能な小型バスである．神奈川大学の協定校アストラハン大学のあるアストラハン市では，非常に一般的な乗り物で，バス停で待っていてもバス（やトロリーバス）よりも「マルシュルートカ」がよく来るので，それに乗る機会が多いように思う．当然，アストラハン大学に交換留学や語学研修で滞在する神奈川大学の学生も利用する機会が多い．もちろん，日本には同じようなものがないので最初は乗り方に戸惑う．料金は運転手に直接渡すが，運転手から遠い席に座った場合は，料金の小銭を運転席に近い客に渡して，運転手に払ってもらう．運転席近くの客はお釣りを運転手から受け取って元の客に戻してやることもする．まさに「習うより慣れよ」あるいは「百聞は一見にしかず」で，学生たちは特にロシア出発前にこのことを教えておこなくとも，比較的短期間で体得するようである．

³ 本節での事例収集のため，神奈川大学の協定校である国立アストラハン大学での留学・語学研修経験のある学生諸氏にご協力いただいた．感謝の意を申し上げる．

⁴ 日本語とロシア語でレアリアを取り上げた研究は，戸辺（1999）がある．これは2点のロシア語教科書を取り上げて，それらの教科書でロシア語を教えながらレアリアを導入するための示唆を与えている．また，グトワ（2010）は日本文学でのレアリアがロシア語訳でどのように扱われているかを観察している．

飲食物（飲み物）では、кефир（ケフィア、ケフィール）、кофе с лимоном（レモンティーならぬ「レモンコーヒー」）、квас（クワス）などは、日本ではほとんど見かけないか、まったく見かけないものであろう（学生たちは、どういうわけか、意外とこのようなものへの順応性は低いようである）⁵。

2.2 日本にあるものも同じであるとは限らない。「ノート」はロシア語では тетрадь だが、ある学生によるとロシアの一般的な тетрадь は（他のことも関わっているようではあるが）小さくて使いにくいのだそうである。日本人なら「ノート」と言っても、まず思い浮かぶのは B5 判のいわゆる大学ノートであろう。B 判というのは JIS（日本工業規格）特有の紙の大きさであるから、それが他の国になかったりするの当たり前のことであるが、日本で暮らしているときはそのことに気付きにくい。

レアリアの知識が必要となるのは、語のレベルだけではない。文のレベルでも問題となるものはある。ロシアで混雑している地下鉄やバスに乗ると Вы выходите на следующей?（次で降りますか）と聞かれることがある。これは、ドアにより遠い人がより近い隣の人に質問するもので、字句通り降りるかどうかを聞いているのではなく、「次で降りないのであれば、私は降りるので、ドアに近い位置に行きたいから入れ替わってください」ということを意味する。これも知らなければ、正しい行動がとれないことになる。

2.3 恥ずかしながら自らの経験から述べる。ロシア語に Приятного аппетита!（よい食欲を）という表現があり、これはフランス語の Bon appétit! に相当し、食事をしようとする人や食事をしている人への挨拶だが、日本語にはびたりと対応する表現はない。

以前あるところでロシア語を教えていたとき、同じ日にロシア語ネイティブの講師も来ていて講師控室を共有していた。昼になると弁当が出るのだが、その講師は日本の弁当が苦手らしく、外に食べに行っていた。午前中の授業が終わると、その講師はいったん講師控室に戻った後に食事に出かける。私には弁当を用意されていて食べ始めようとする。その講師は控室を出ていくときにロシア語のこの表現を言うのである。礼儀としてその言葉に（Вам также! など）返すべきであることは頭では分かっているのだが、それを、変に意識せず（ある意味、反射的に）できるようになるまでしばらくかかった記憶がある⁶。日本語にうまく対応する表現がない。すなわち日本ではこのロシア語の表現を使うような種々の場面で統一的な動作をとることがない。それが私が挨拶に返しをするのを戸惑わせたのではないかと考える⁷。

⁵ あえて順応できなかったものを挙げてくれたのかもしれない。同じ学生たちの別の報告ではロシアでの食事はおいしかったという感想が多かった。

⁶ 挨拶の言葉というのは交話的機能（phatic function）として、話し手と聞き手のチャンネル（通信経路）がつながっていることを確認する役割を果たしている（Jakobson, 1960）。適切な挨拶表現の使用ができないと、相手にはチャンネルが繋がらないことを感じさせ、疎外感を味あわせることになる。

⁷ 個々の言語では挨拶の表現形式にも内容にも異なりがある可能性があり、自らの言語文化の習慣と異なると、それをされるのも、されるのも違和感を覚えるのである。食事の場面

2.4 ここまでのいくつかの例でわかるように、レアリアに関する知識は実践の中で身に付くことが多いだろう。逆に言うと、教室で学習させるのは困難なものも多いように思う。しかし、だからと言って、教室での教育でこれを放棄するわけにはいかない。

3. 外国語レアリア学習に関わる語彙・表現のいくつかの特徴

外国語のレアリアを学習・教育するにあたって、種々の語や表現でどのような特徴がみられるか検討する（ただし、まだ全貌を明らかにすることはできない）。ここでも前節と同様に、日本人のロシア語学習を念頭に置き、ロシア語の語や表現が日本人学習者においてレアリアの観点からどのような特徴をもつものがあるかを見ることにする。

少々話を広げて言ってしまうと、外国語のレアリア学習には言語で表される物事すべてが関わる。それは意味論的問題であり、あるいは語用論的問題である。

また、以下に述べるように、母語（あるいは既習の言語）を媒介として学習できるかどうかはこの問題に関与する観点である。

3.1 上での述べた通り、ロシア語の Приятного аппетита!には日本語にぴたりと相当する表現がない⁸。日本語での物事の切り取り方（あるいは「世界観」）を通して、表現形式とその用法を覚えることができない。このように、日本語としての概念が存在しないものは、母語である日本語を媒介として学習することはできない。

3.2 ロシア語の квас は日本語で表すならばカタカナで「クワス」と音訳される⁹。このロシアでは極めてポピュラーな飲料は日本ではほとんど知られていない。「クワス」という日本の語存在自体が知られていないと言ってよい。しかし、この場合、日本語の「クワス」を媒介にして、新たにその内容を覚えることができる。Балалайка「バラライカ」、самовар「サモワール」など、日本ではないようなものでも一語で置き換えができるものはある。

3.3 同じく音訳されるものでも икра は「イクラ」であり、日本語としても知られている。しかし、ロシア語と日本語では指し示す意味範囲に違いがある。ロシア語では「食用の魚の卵」ということになるが、日本語では限定されて「食用のサケやマスの卵」である。こちらはロシア語では красная икра（赤いイクラ）である¹⁰。これはロシア語の икра のうちの一部のみを日本語の「イクラ」が表しているという対応関係にあり、ロシア語のそれは日本語とは意味範囲が異なることを意識して覚えることになる。このように、形式が対応しているので、意味が対応しているように思えても、異なるものもある。

の別の例として、日本人が欧米の家庭で食事をするとき、あちらでは「いただきます」を一斉に言わないので違和感を覚えるということはあるようだ。

⁸ 個々の場面ではそれなりの訳ができるかもしれないが、統一的な表現はない。また、フランス語やその他の言語のこれに相当する表現を習得していれば難しくはないだろう。

⁹ いわゆる欧米の言語からの外来語となり、通例、日本語では片仮名で表記される。

¹⁰ 厳密には、「両生類等の卵」や「ふくらはぎ」の意味も表す。ちなみに чёрная икра（黒いイクラ）がキャビアを意味する。

3.4 ロシア語の *учиться* は日本語で「勉強する」とも訳せるが、「在学している」というようにも訳すことができる¹¹。そもそも、「勉強する」に対応するロシア語は *изучать* や *заниматься* もあり、これらにも用法に違いがある。また、*учить* [слова] ([単語]を覚える・学ぶ) も同類の意味をもつと言える。これらの語（ここでは動詞）の用法の整理が必要である。このような使い分けは、あまりレアリアと考えられないかもしれないが、ロシア語の現実世界の切り取り方という観点からは、実は十分にレアリアの問題なのである¹²。

3.5 固有名詞はその性質上、ロシア語と日本語で一対一に対応するが、それぞれにまつわるレアリアは豊富である。*Москва* と「モスクワ」は対応するが、この地名に関して歴史・地理・文化など様々な事柄が関係してくる。

固有名詞には、日本人学習者に比較的知られているものもあれば、そうではないものもある。*Российская Федерация* 「ロシア連邦」ならまだしも、*Русь* 「ルーシ」となると「知名度」は下がってしまうだろう。

4. まとめにかえて

レアリアは、単に学習者が知らない異国の物事にとどまらない。それがその言語話者の世界のとらえ方を反映したものだということであれば、個々の語や表現の意味用法に関わる問題である。外国語学習がただコミュニケーションの手段を得るだけでなく、視野を広げるのに役立つのも、母語を外国語に単純に置き換えができないところにある。

レアリア学習の観点から見た語彙・表現の特徴の詳細やその分類については、今後の課題となる。

¹¹ ここでは不完了体で代表させる。

¹² その意味では、いわゆる「運動の動詞（移動動詞）」も、あるいは動詞の体の使い分けも同様に考えることができる。

参考文献

- グトロフ, エカテリーナ. 2010. 「比喩の翻訳法 — 三島由紀夫の『金閣寺』のロシア語訳について」『れにくさ』(東京大学人文社会系研究科現代文芸論研究室)第2号, pp. 129-147.
- 千野栄一. 1986. 『外国語上達法』岩波書店.
- 戸辺又方. 1999. 「ロシア語教育におけるレアリア — 外国語教育の一視点 —」『北九州大学外国語学部紀要』第96号, pp. 45-54.
- Jakobson, Roman. 1960. "Linguistics and Poetics." in Thomas A. Sebeok (ed.) *Style in Language*. Cambridge, Massachusetts: MIT Press. pp. 350-377. (Also in *Selected Writings III: The Poetry of Grammar and the Grammar of Poetry*. The Hague: Mouton. 1981, pp. 18-51.)